



住民の手による、 農業を軸とした地域づくり

移転改築した上秋津小学校の旧校舎を生かし、都市と農村の交流施設「秋津野ガルテン」が誕生したのは平成20年。ここを拠点とした新しい農村の形が全国から注目されています。

上秋津地区は、江戸時代には梅、明治時代には柑橘栽培が既に始まっていた農村地域で、農業が地域を支えてきたという歴史があります。

昭和32年、上秋津村当時、村有財産である土地・山林を公共のために有効活用することを目的として、「社団法人上秋津愛郷会」が誕生。得られた収益は、教育の振興、住民福祉、環境保全に使うという独自の運営を重ねてきました。「農業が衰退すれば地域も衰退する」という想いから幾たびもの農業危機も地域で知恵を出し、乗り越えてきたのです。

その後、都会にはない、香り高い農村文化社会の実現を図るため、平成6年に地域づくり塾「秋津野塾」を結成。子供を主役にした様々なイベントを開催し、地域内外の交流を活性化してきました。

た。平成8年には農林水産省表彰事業「ゆたかな地域づくり表彰天皇杯」を受賞し、地域全体が更に団結・活性化しています。

農村地域でありながら自然環境・住環境・利便性の良さから年々人口が増加しています。今後、どのように地域づくりを進めていくか、行政や様々な組織の協力の下、マスタープラン作成のためにアンケート調査を実施するなど、「住民のための地域づくり」を徹底して考えていく方法を行っています。

そして、「将来を見通した地域づくりのためには人材育成が基礎であり、そのためにも財源を確保していくこと」「農業を軸として地域の価値を創り、そこに暮らす人を減らさない」といった目標を掲げつつ、新たな事業として太陽光発電の設置と売電による、エネルギーの地産地消にも取り組んでいます。

安心して暮らせる地域づくりを住民自らが考え、行政と協力して実行していくことこそ「地域の活性化」であることを上秋津の住民は、行動で見せてくれています。

まちを元気に まぢぐりの人々



秋津野ガルテンには「宿泊棟」、スローフードと地産地消にこだわった農家レストラン「みかん畑」、お菓子体験工房「パレンシア畑」などがあります。

農家レストラン「みかん畑」

The former Kamiakizu Elementary School building has been remodeled into "Akitsu-No-Garuten." The new facility offers lodging, a rural farm-themed restaurant advocating "slow food," and opportunities to experience harvesting of Japanese mandarin oranges and making sweets. It has received recognition nationwide.